

5年生が取り組んでいる学校内水田。学校内水田で直面しているのは、水不足。使っていないバケツを集めて水を溜めることも試みているが、少々の雨では水はたまらない。開墾に水の確保は欠かせない。「〇〇新田」という地名からは、開墾と水の確保が連想される▼水の学習といえば、4年生。小学校の東にある大きな貯水タンク。ここまでどこをたどって、水がやってくるのか。その道をたどると、等高線を見つける▼新田開発と水路の確保。これを可能としたのが、測量技術であり、その成果の一つが等高線。「まんぼ」を掘って水を確保したのは、高低差に打ち勝った先人の知恵の成果である▼水の学習は、住む地域によって内容が異なる。水を確保する方法が違うからである。しかし、どこの地域の子も高低差によって水は配水されるということは共通して学ぶ▼地域を舞台に学ぶことは、先人の知恵と工夫を学ぶことだ。子どもたちの学びの中に地域をつなげていくのは、教師の仕事である。学校では、「総合的な学習の時間」がそれにあたり、いなべ市ではその時間の名称を「未来いなべ科」と名付けている▼阿下喜小学校では、地域から学ぶ学習を今年度から「阿下喜楽」と名付けた。これから、先生と子どもたちが学習を創り上げていく（ことを期待している）。そういえば、学校に「水準点」という石がある。どこにでもあるものではない。